



〒399-0711 長野県塩尻市大字片丘字南唐沢 6342-4  
TEL (0263) 53-8802 FAX (0263) 51-1290 E-mail kikaku@edu-ctr.pref.nagano.jp

## 学校教育改革が生み出す幻想

教職教育部長 古澤繁喜

新しい年を迎えて、皆様方の益々の御活躍を御祈念申し上げますとともに、総合教育センターの様々な事業に対しまして、より一層の御協力、御支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、学校教育改革という言葉が世に氾濫して久しいわけですが、このことについて少し基礎的に考えてみたいと思います。歴史的に学校が機能として獲得し保持してきた様々な要素のうち、現代社会に本来の期待値を表すことが出来なくなったものが存在することは否めない事実でしょう。しかし、このことを事由に、学校が保持している機能をあたかもすべてが不全であるかのように断罪するポピュリズム的な風潮は、いかにも振子の一極値への振動現象であるように思えます。それゆえ、具体的に学校教育改革を進めるに当たっては、「スクラップすべきは、逡巡をせずに大胆にスクラップすべき。」という思考と、「保持すべきものは確固たる意思力で保持する。」という思考とが、常に有機的に微妙なバランスを保ち続けることが必須であると考えます。

また、成果主義を基調におく学校教育改革では、当然のこととして改革の対象を測定・評価できるものとして計画・推進されていますが、「学校が持つ機能のすべてを測定することは出来ない。」という根源的な事実認識とともに、「測定という操作は、対象物そのものを与える影響のために、真の姿を記述することは不可能である。」という物理学的な基本原理を前提として推進しなければならないでしょう。

しかし、声高に改革を標榜する者たちの言辞は、「根元的な視点からの思慮」を欠いた非常に狭窄な思索状態を想起させ、このような改革の参加者たちが放つ「全てのものが測定可能である。」という思想に基づいた傲岸で盲信的な主張からは、生理的なレジスタンスをも呼び起こします。

いずれにしても、研修事業をはじめとする総合教育センターでの様々な事業の推進に当たりましては、学校教育における「測定が不可能であり、確固たる思いで保持すべきもの。」の追求に固執することを大切にしながら、学校教育改革の一端を担わなければならないと思う今日この頃です。

## 研修講座の紹介

### 高等学校初任者研修「冬期宿泊研修」

1月17日(月)・18日(火)の2日間、センターでの高等学校初任者研修の最後に当たる「冬期宿泊研修」が実施されました。

初任者全員が、各自で行ってきた「自己課題研究」の成果について発表しました。内容は、教科指導や生徒指導、クラブ指導などの多岐にわたり、初任者同士で活発な質疑応答が交わされました。今回の研修を通して、1年間のまとめを行うとともに、2年目に向けての展望をもつことができました。

#### <受講者の感想から>

- ・自己課題を振り返ってみることで、今後の課題が明らかになった。また、先生方の発表を聞くことで、よい刺激になった。
- ・先生方の工夫を取り入れて、自分の指導方法を改善していきたい。



- ・今回の発表を学校に持ち帰り、他の先生と共有したい。
- ・問題意識や向上心を持って、これからの教員生活を送っていこうと思う。

### 人間関係を育むアサーション

～相手を尊重した適切な自己表現力を育む～

目白大学教授の沢崎達夫氏を講師に迎え、アサーションについて、その基礎と活用を学ぶ講座を開催しました。

「アサーションとは何か(自己表現の3タイプ)」、「アサーション・トレーニングの特徴」、「スキル向上に必要なこと」、「DESC法の活用」等について、講師の長年の経験や調査研究に裏打ちされた、たいへん説得力のある講義でした。また、二人がペアになったスキル・トレーニングの演習や、グループによるDESC法の活用演習を通して具体的、実践的に学ぶことができました。

#### <受講者の感想から>

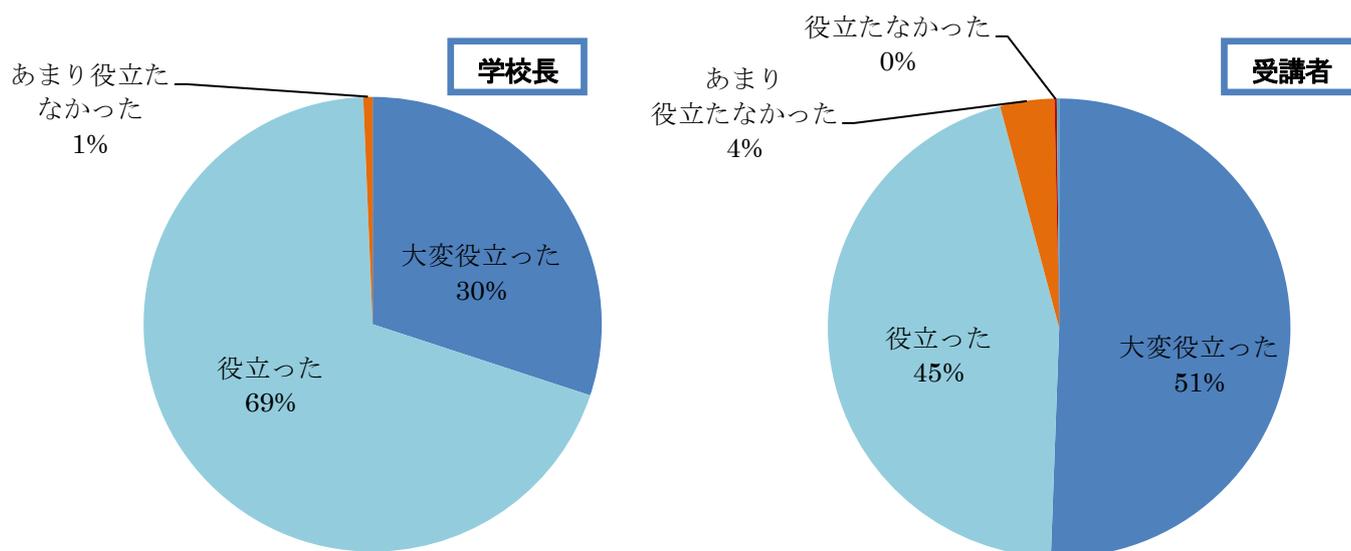
- ・まずは自分がアサーティブな対応をする姿を子どもに見せることから始めることが大切だと感じた。
- ・演習がとても楽しく、実践につなげることができそうであった。
- ・演習の時間が多くあり、体験的に学ぶことができ、わかりやすかった。
- ・子ども同士の日常の会話や、自分の子どもに対する接し方を見直す必要性を考える機会となった。
- ・DESC法を学級活動等で用いていきたい。



# 研修講座の改善に向けたアンケートの結果

総合教育センターでは、各学校の教育活動の充実につながる研修講座となるよう、その改善に向けたアンケート調査を行いました。今回は、県内の全ての公立学校から約 30%にあたる学校を抽出し、学校長と希望研修講座受講者に回答していただきました。抽出校におきましては、大変お忙しい中アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。その結果をまとめましたので、報告いたします。

## 1 研修講座の内容が、学校経営、授業、校務等に役立ったかどうかのアンケート結果より



研修講座の内容が、その後の学級経営、授業、校務等の実践や研究に役立ったか質問したところ、学校長の99%、受講者の96%が、研修講座が「大変役立った」「役立った」と回答しています。研修講座の内容が、学校や教職員のニーズに合い、学校で活用されるものになっていたことがうかがえました。

「あまり役立たなかった」「役立たなかった」と回答された方の理由をまとめると大きく4つに分類されました。

### ① 講座で研修した内容は良かったが、実践する場面がなかったため、役立てられなかった。

回答例：義務教育での実践方法や、新学習指導要領における義務教育からのつながりは、具体的に理解できて自身の教養向上にはつながったのですが、高校であるため本校の内容とは異なり、すぐに実践するところへ至らなかったため。

### ② 受講した目的と、講座の研修内容が合っていないかった。

回答例：自然や生き物とふれあうということで、実践発表をしていただいたが、自然とふれあう活動のポイントになるようなところ（どんなことをねらって、どんなことに気を付けて etc）をはっきり教えてもらえると良かったと思いました。

### ③ 内容が多かったり高度であったりして、十分に理解したり技能を身につけたりすることができなかった。

回答例：内容はとても興味深く良かったのですが、基礎的なことを全て学んでもらいたいと、いろいろなことを教えていただいたため、ペースが速く、内容も多く、理解することができませんでした。

### ④ 研修講座のために準備してきた物が使われず、研修に生かされなかった。

回答例：事前にアンケートをとっていたのに、当日半分以上が参加者同士の情報交換の時間に使われていた。あらかじめ集めた事例を使って検討するような場面もなかった。

## 2 研修講座の改善の方向

- ① 学校・教職員のニーズに応えられる研修講座、受講して良かったと満足でき実践につながる研修講座を目指します。

講座終了時に実施しているアンケート、講座2～5ヶ月後の学校長・受講者へのアンケート結果を分析し、学校・教職員のニーズにあった研修講座になるよう講座の目的や内容を工夫します。必要により、事前にアンケート調査を行ったり、講座開始時に受講者の課題を話してもらう機会を設け、それに答えていくようにします。

- ② 講座の目的や内容が、各学校の教職員に分かりやすく伝わるように、工夫します。

講座の目的や内容と対象者を明確にした講座の構築を目指します。また、受講者の研修目的と実際の講座の内容がずれないように、『研修講座案内』やホームページで紹介します。

## 3 学校長・先生方から寄せられた要望に対する回答（主なもの）

Q：講師のための講座を早めに設定してほしい。

A：来年度、講師が教科指導の基礎を早めに身につけるために、「講師のための教科基礎」と「講師のための教職基礎」の2講座を、6月に実施する予定です。



Q：教職員がより高い指導力を身につけるために4～5回継続的に研修できる講座を設定してほしい。

A：主にセンターで年間5日研究（研修）を行う「実践研究」「産業教育教材開発研究」があります。専門主事の直接指導のもと、自分の課題にもとづき継続して研究を進めることができます。

Q：キャリア教育、ユニバーサルデザインの講座を設定または拡充してほしい。

A：来年度、キャリア教育にかかわる講座を、2講座設定する予定です。授業のユニバーサルデザイン化についても、いくつかの研修講座の中で含めて扱えるように考えています。

このほかにも、「生きる」などの哲学の講座の希望や、新学習指導要領関連で「言語活動」について扱う講座を設定してほしいなどの要望がありました。今後、参考にさせていただきます。

Q：年度途中でも受講可能な講座を設定してほしい。

A：受講人数に余裕がある講座については、受講申込終了後でも追加募集を行っています。また、学校全体で研修を行いたい場合は、「校内研修支援」事業を利用できます。これは、学校で行う研修に対して、専門主事が訪問して実習や講義を行うものです。この「校内研修支援」は、年度途中の申込みも可能です。詳しくは、ホームページをご覧ください。



当センターの事業について、ご質問やご意見がありましたら、企画開発部(<tel:0263-53-8802>)までお寄せ下さい。

# 児童生徒の学力向上に役立つ

## 算数・数学「クリア問題」「チャレンジ問題」を提供します！

「家庭学習などで、今学習していることだけでなく前に学習したことにも取り組ませたい。」「複数の領域の問題が、1枚にまとまっているプリントを作りたい。」「学力調査などから見えた課題に対応した問題を確認したい。」

長野県総合教育センターのホームページには、そのような声に応えた問題が提供されています。ぜひ、ご活用ください。



### ＜提供している問題の特色＞

- ◇ 小学校4年から中学校2年まで、各学年の問題を **毎月更新**
- ◇ 諸調査から課題が見えた問題を精選
- ◇ 「知識・技能」「活用」に対応
- ◇ 指導に役立つように、正答率、解答類型などの情報もコンパクトに掲載
- ◇ 家庭学習に、ドリルの時間に、使い方も加工も自由自在

### クリア問題(知識・技能)

**Clear** 5年 (小学校5年の問題例)  
**クリア問題 1** (月 日)

名前

1 次の計算をしなさい。

(1)  $0.3 \times 0.2$

(2)  $1.4 \div 0.7$

(3)  $3 + 2 \times 4$

2 次の数を小さい順に左から並べましょう。

$\frac{7}{10}$ ,  $0.6$ ,  $\frac{4}{5}$

### ＜正答率、解答類型などの問題情報＞

問題番号	解答類型	反応率(%)	正答
1 (1)	・0.06 と解答しているもの	62.7	◎
	・0.6 と解答しているもの	29.2	
	・上記以外の解答	7.6	
	・無解答	0.5	
2 (2)	・20 と解答しているもの	69.9	◎
	・2 と解答しているもの	16.4	
	・上記以外の解答	12.5	
	・無解答	1.2	

### チャレンジ問題(活用)

**Challenge** 2年 (中学校2年の問題例)  
**チャレンジ問題 1** (月 日)

名前

1 下の図のように、底が階段状の直方体の水槽があります。階段の各段は水平です。この水槽に毎分同じ量ずつ水を入れていきます。水を入れ始めてから満水になるまでの時間と水面の高さとの関係を表すグラフについて、ア～オを見ながら加藤さんと吉田さんが話をしています。

※これらの問題は、長野県学力実態調査問題、全国学力・学習状況調査問題、特定の課題に関する調査問題などから作成しています。

### ダウンロードはここから...

「教育情報」をクリック



教育情報事業

- 教育情報
- 研究調査
- 教育情報データベース
- 概要
- 検索方法 (PDF)
- 検索 (県内教職員のみ)

教育情報

■各分野の教育情報

- ◆総合学習の時間に関する情報(実践事例)
- 小学校の実践事例
- 中学校の実践事例
- 特別支援学校の実践事例
- ◆数学
  - 算数・数学教材研究ノート
  - 算数・数学問題【クリア問題・チャレンジ問題】

### 算数・数学問題【クリア問題】

小学校4年	小学校5年	小学校6年
▶1月	▶1月	▶1月
中学校1年	中学校2年	中学校3年
▶1月	▶1月	▶1月

### 算数・数学問題【チャレンジ問題】

小学校4年	小学校5年	小学校6年
▶1月	▶1月	▶1月
中学校1年	中学校2年	中学校3年
▶1月	▶1月	▶1月

長野県総合教育センターの  
 トップページ